

TCFで授業を変える

ガイドブックの見どころ

明日の授業から使える「発話」の工夫で
子供の学びが動き出す



ガイドブックや紹介動画等は[こちら](#)



T

ティーチング

知識・技能を
分かりやすく教える

C

コーチング

考えや気づきを
引き出す

F

ファシリテーション

協働的な学びを
促す

ガイドブックを開けば、授業の「次の一手」が見付かる

2 東京都の取組と基本的な考え方

3 TCFの働きと具体例

教員がどのような状況や活動で、どのような意図をもって学習者と関わるかによって、使い分けが異なります。

ティーチング	コーチング	ファシリテーション
知識・技能の理解を深めるために	相手の考えや気づきを促し、引き出し、行動を試すために	複数の意見を整理し、合意形成を促すために
なぜこの知識が必要ですか？この知識は、どこにどこで使われているのかを説明します。	どうしてあなたがこのように思いますか？そうそう、そういう方法もありますね。	どうすればみんなが納得できますか？

働きの違いが分かる

2 東京都の取組と基本的な考え方

4 TCFの意図的な使い分けの具体例

同じ場面でも、TCFの意図的な使い分けによって、使い分けが異なります。

【高等学校の例】総合的な探究の時間

地理地学の知識を通じて生産者と消費者の結び付きを強化する方法について考える。

学習者 農産物の生産から消費までの流れを整理し、食料の安全と安心を確保するために、食料の生産者と消費者の結び付きを強化する方法について考える。

学習者 農産物の生産から消費までの流れを整理し、食料の安全と安心を確保するために、食料の生産者と消費者の結び付きを強化する方法について考える。

小・中・高の授業例

3 TCFの使い分けの実例

4 1単位の授業におけるTCFの使い分けイメージ図(参考例)

教員は、学習者が主体的に学習活動を通じて、単元目標や1単位の授業をデザインすることを目指す。その際に、学習者の状況や活動に応じて、適切なTCFの使い分けを行うことが求められる。

1時間の使い分けが見える

「何を話すか」だけでなく、
「何のために話すか」が見えてくる

授業ですぐに試せる3つのポイント

1

発話例

そのまま使える問いかけ

2

授業例

教科・校種別の事例を掲載

3

振り返り

授業の発話を生成AIで可視化

4 生成AIを活用した発話分析

1 TCFの意図的な使い分けの分析

下の図は、授業中の教員の発話の状況を、生成AIがT、C、F、その他に分類して可視化したものです。その他は、学習者の発話を切り替える、興味・関心を高めるための発話等で、授業の大切な要素の一つです。



発話分析の事例も紹介

まずは、一つの問いかけから始めてみませんか？



東京都教育委員会